

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

合田 直弘

世界の競馬サークルでフロントライン（最前線）に立つ1頭の競走馬、あるいは、1人のホースマンにスポットライトを当ててご紹介しているこのコラムだが、筆者としては、既にあまねく知れ渡っている存在よりは、間もなく最前線に立つことが予想される馬や人を、いわば「先物買い」で取り上げることを心掛けている。

そういう意味で、今回のコラムは自らの主義を曲げて筆を進めることになった。

今月取り上げる主役は、今年の英國ダービー馬ゴールデンホーン（牡3、父ケイブクロ）なのだ。世界の競馬における今は、現現在の最前線を語る上で、避けては通れぬ大きな存在となっていること、そして、既に確固たる実績を残している馬ではあるが、更にひと化けしそうな、もつと「先」がありそうな予感があることから、敢えて取り上げることにしたのである。

ゴールデンホーンは、ダイヤモンドのデビアス社を業界トップに押し上げたオッペンハイマー家の後継者である、アンソニー・オッペンハイマー氏の生産馬である。1歳秋にタタソールズ・オクトーバーセール・ブック1に上場されたものの、19万ギニーで主取りとなり、生産者が自ら所有することになったゴールデンホーンは、ニューマーケットのジョン・ゴスデン厩舎に入厩。昨年10月29日にノッティングガムで行われたメイドン（芝8F75y）でデ

ビューアし、見事に緒戦勝ちを飾つて、2歳シーズンを終えている。

3歳緒戦となつたのが、4月15日に「ヨーロピアンダービー」で行なわれたLRファイールデンS（芝9F）で、ゴールデンホーンはここも白星で通過。フィールデンSと言えば、英ダービー路線の序章と位置付けられている一戦だが、母の父がG1クラウンアン

S（芝8F）勝ち馬ドバイデステイネーションで、叔母にG1コロナーショーンS（芝8F）勝ち馬レベッカシャープがいるという血統背景から、馬主はこの馬を「10Fの馬」と判断。英ダービーには登録すらせず、春の目標はG1仏ダービー（芝2100m）と表明していた。

ところが次走、英ダービーへ向けた代表的前哨戦のG2ダービーS（芝10F88y）も楽勝し、出走すれば一番人気が確実な情勢となつて馬主も方向転換を決意。7万5千ポンド（約1425万円）の追加登録料を支払つてG1英國ダービー（芝12F10y）に挑み、こも3馬身半差で楽勝。

デビューカラ無敗の4連勝で英國3歳世代の頂点に立つことになつた。

この馬の評価を更に高めたのが次走、7月4日にサンダウンドで行われたG1エクリップスS（芝10F7y）だつた。古馬との初対決で、史上初の3連覇がかかつたトレヴ

サーだ。前年、G1仏ダービー（芝2100m）とG1愛チャンピオンS（芝10F）を制覇。このうち、英愛ダービーに加えインターナショナルSを制しての出走だったオーストラリアを擊破した愛チャンピオンSの内容を高く評価され、レイティング1

27を得て世界ランキング中距離部門の首位に立つた馬である。

結果は、ゴールデンホーンがザグレイギヤツビーに3馬身半をつける完勝を演じ、史上5頭目となる英ダービー／エクリップスSの連覇を達成。これまでに達成した4頭の名を挙げると、タルヤー、ミルリーフ、ナシュワーン、シーザスター等だから、この段階でゴールデンホーンは歴史的な馬と比肩される存在となつた。英国の競馬日刊紙レイシングポストは、独自に編纂しているレイティングで、ゴールデンホーンのエクリップスSを132と査定。前年首位のジャスタウェイ（130）、一昨年首位のトレヴ（131）を、既にして上回る評価を与えている。

ゴールデンホーンの陣営は既に、シンズ最後の目標を「凱旋門賞」と明言。このまま無敗で凱旋門賞まで突っ走つたとして、史上初の3連覇がかかつたトレヴとの激突は、絶対に見逃せない戦いになりそうである。